

# 2014年度 事業報告書

専務理事  
大石 慶太郎

## 1. 事業内容

- (1) 理事長補佐
- (2) 庶務担当、事務局統括

## 2. 所感

まずは2014年度の運動・活動にご協力いただきました会員の皆様に御礼申し上げます。

会務・財務の責任者として、一年間、長岡青年会議所の運営に務めさせていただきましたが、2014年度の長岡JCは特に行政・外部諸団体との関わりが多い年でした。背景には当該事業年度が新潟県中越地震から10年を迎える年であること、全国でも有数の会員数を誇る会議所として役職者を含む多くの公益社団法人日本青年会議所への出向者を輩出したこと、そして温故知新のスローガンの下、歴史を振り返るべく先輩諸兄との交流を図ってきたことが挙げられます。

まず会務においては、活動を控えた時期もありましたが、総会・例会・理事会・事業と全ての計画を実施していただきました8名の委員長をはじめとした委員会メンバーに感謝致します。雪しか祭りから始まり、10月事業まで年間を通じて、数多くの団体と協働した事業を展開いただきました。長岡JCの常識だけでは通用しない外部との連携については皆様に並々ならぬご尽力を頂戴しました。日本JCの本会、地区、ブロックとの連携においても、1月のJCIPresenterから11月の公開討論会に至るまで、年初計画にはない事業についても皆様のご協力が無事開催することができました。一連の活動の円滑な実施のために、会の代表として佐田直人理事長には行政、他団体、本会など多くの公務にご参加いただきましたことに、またLOMスタッフの皆様からも公務代行で多くのご協力をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。また財務においては、本年は年会費から賄う事業費と同額程度の助成金等を事業費に充て、活動を展開してまいりました。助成金等の獲得には特に各委員長の積極的な働きかけによるところが大きかったと感じております。理事会の半数を移動理事会として開催するなど、各会場で開催したことは長岡市の市民協働のあり方にも積極的に関わる姿勢を持ち、移動や諸経費などのご負担について理事の皆様、設営委員会の皆様のご理解とご協力によるものであります。しかし活動を通して見えてきた諸会議での積極的な質疑応答、事業計画書、報告書の不備などの基本的な課題も多く見えてきました。現役会員同士でも経験の有無に応じて指導していく意識、役職に囚われず積極的に学ぼうとする意識を持ち続けることが長岡青年会議所の未来の扉を開くと考えます。

最後に、2014年度の運動の全てが2013年度以前の運動の積み重ねの賜物であることの意識を新たにし、2015年度以降の誇りある運動に繋がることを願い、事業報告書とします。